

地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	★オアシスの理念 ・主体的な決定の尊重 ・安らぎと自信を感じる生活 ・地域社会の一員としての生活 ・最期までその人らしく地域の中で安心して暮らせる事を支援し、地域に根ざしたグループホームを目指している	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・オアシス独自の介護理念の目標を掲げ、家族・外部の方に分る様にし職員会議等で目標実現に向けて話し合いを行なっている ①私達は尊敬と自尊心の尊重に心掛けます ②安らぎと安心感を持てる生活を支援します	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・民生員、福祉員、地域の方々のホームへの見学、運営推進会議の中での話し合い、積極的にホームの外に出て地域社会に溶け込み社会の一員として地域行事への参加、ふれあいをもち理解していただける様に取り組んでいる	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・ホーム隣近所の散歩、散策しながら、日常生活の中で挨拶等をおして顔馴染み関係を作っている (地域の祭り、買い物等)	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・納涼祭、福祉祭、地域祭、生涯学習の発表会等への参加をしている ・園児とのふれあいでお便り交換をしたり、運動会、遊戯会に参加し、又、当オアシスに園児の訪問を受け入れ、おやつ作りを体験してもらっております ・地域の高齢者と2ヶ月に1回位の割で地区の公民館の”いきいきサロン”に出かけ、仲間作りをしている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・介護にお困りの地域の家族の相談に応じている ・地域の高齢者の方々、一人暮らしの方々をホームに招き、料理講習等を通して、食についての勉強会に取り組んでいる(年に4～5回)	○	男性の一人暮らしの方へ声かけ、参加を多くしたいと思っている
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価の内容、結果を全職員に周知させ、個々のサービスの見直し、外部評価を受ける事でサービスの質の向上、職員が入居者に対してケアの改善につながるとしています		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・1年間のテーマを掲げ、メンバーもテーマに応じた方々に参加をいただき、医師・薬剤師・消防署・地域の方々・民生員・福祉員・家族・行政を交え、意見等を共有しながらサービス向上にいかしている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・介護保険係、市包括支援センターの担当者との情報交換、運営推進会議等に参加して頂き、ホームの実績やケアサービスの取り組みを伝えながら、意見交換・相談しながら協力関係を保っている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・市包括支援センター(社会福祉士)の講師を依頼し成年後見制度及び権利擁護を学び、家族の方々へ相談に応じられる様にパンフレット等を常にカウンターに設置している	○	講義を受けた内容等を家族の方々へ情報の提供を行なって行きたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	すべての職員が正しく認識しており、「虐待」「拘束」しないケアを実践している 又、おむつはずしを実践し、トイレ誘導を行っている「言葉の暴力」もあるので言葉使いには十分注意している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・入所時に説明を行ない、重要事項説明書、契約等に権利義務を分かりやすく明示している ・終末ケア等の文書にて家族から同意書を得ている ・家族の方が十分に理解され、納得された上で印鑑を頂いている 	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の心に寄り添うケア、その人らしく自然なケアの中で話をしながら、意見を引き出す工夫、話しやすい関係を持ち苦情や要望があった時は施設長、職員で話し合い解決している 	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・面会、ケアプランの見直しには来園していただき、現状報告（毎月）、健康状態について、食事について、日常の状況についてスナップ写真にて毎月報告している ・紙おむつ代、パット代等請求書・領収書を家族に確認していただき、確認印を頂いている（トラブルなし） ・事故が発生した場合、速、家族に連絡をとり承認を得て、事故報告書に記録している 	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族が来訪された時は、心身の状況や日頃の生活ぶりを伝え意見や希望を出して頂いている 又、御意見箱を用意しているので、無記名で投函をお願いしている 	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議等月1回（3～4時間）で施設長から色々な意見・提案を話され職員との意見交換を行っている 	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・希望の休み等を導入し勤務調整に努め、スタッフの意見を言える雰囲気を作っている 	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・施設長、管理者が現場職員の考え方や意見を聞く耳を持ち、日頃から意見交換を行っている ・利用者と職員との信頼関係が出来ている 又、小さい施設なので異動はしていない		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・接遇技術の向上 ・専門知識の習得する様に努め、研修等は交替で参加させている ・介護福祉士その他の資格を一人ひとりに自覚を持たせている（今年2名合格） 又、ヘルパー資格（2級～1級）習得させている（2名） ・介護の質の向上を目指し、オアシス独特の観察力マニュアルを作成し、入居者の気持ちにどれだけ近づけているか記入されている ・規則や介護マニュアルが守れない人は、管理簿に記入する事で反省、及び自覚してもらう		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・県南ブロック研修会実施 ・グループホーム同志の相互研修等にも取り組んでいる（危機管理マニュアル、防災マニュアルについて） ・ヘルパー2級介護実習生への研修施設として質の向上につなげている		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・ケアについての悩み、家庭での悩み等を良く聞いてあげ、気軽に相談される、何でも言える様な雰囲気を作っている ・定期的な健康診断や腰痛防止対策に努めている ・ストレスの背景を良く理解してやり、懇親会をして月1回の定例会昼食会のバイキングに全職員を参加させたり、慰労会を年2回は行なっている		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・指示待ち人間を作らない為、自分のやるべき仕事を分かりやすく、一日の流れのマニュアルを作成し、時間帯に添って（写真、時間帯）遂行できる様に作成した 又、入居者の行動、観察力が重要 ・他の職員の仕事も理解出来る様になった ・職員一人ひとりの良い点を評価し、適材適所の役職を付けやる気を引き出し責任を持たせている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・利用者の状態（表情・行動）に配慮しながら、ホームの生活が楽しい所である事一日の流れの写真やお楽しみ綴等見せたり、寄り添うケア、顔馴染の関係を作っている ・本人が一番得意としていた物を生かす工夫をしている（ピアノ、絵画等）		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・ホームへの見学等を促し、困っている事、家族が求めている事、不安な事を率直に話しされる様に施設長、管理者、介護支援専門員が対応している 又、利用者が主役で安心して快適な暮らしが続けられる様、スナップ写真等を見てもらい信頼してもらう様努めている		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人の状況や暮らしぶりを聞き、家庭と変化がない様に、ホームの生活にとけ込める様に自立支援を目標としたケアプランを作り、その人らしく、その人が望む暮らしが実現できる様なサービス支援を目指している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・よく見てよく聞いて入所者の望む事を受容し、生活の中でできる限り役割を持っていただき、残存機能が発揮できる様に無理なく本人が持続できる様、家族と相談しながら取り入れている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・昔の料理、季節ごとの行事、野菜作りを教えてもらいながら、一緒に作付け・収穫できる事を喜んでいる (ピーマン、ナス、トマト、豆等) ・らっきょ漬、梅漬、白和え、団子作り等旬の季節に応じた保存食を作っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族がいつも気軽に来やすい雰囲気を作っている ・誕生会、父の日・母の日、感謝の集い、福祉祭に参加いただき一緒に食事をしたり、入居者、家族、スタッフとふれあいを行なっている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・面会時に出きるだけスナップ写真を撮り部屋に飾り、家族の絆を深め一人ひとりのアルバムを作成し見ていただいている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・古里訪問、声の便り ・墓参り、竹の子とり、買い物 ・通信交換（年賀状、暑中見舞いなど）を行なっている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・気の合う馴染みの関係を作りあげ、頼り頼られる精神的な面での支え合いが生まれている ・食事の盛り付け、料理作り、おやつ作り、食後の後片付け等を皆で行なっている		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・利用者が入院の為の退所に際しては、家族との話し合いで部屋を確保しておき退院時は、再利用出来る様にしている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりの身体的、精神的な状態、訴えや要望に耳を傾けながら全職員が細かく把握し、その人が望む暮らしが実現できる様に、利用者の立場に立ってサービスを配慮している ・ピアノ、絵画等好きな事が出来る場を提供している 	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの生活歴に関する情報を本人と家族、その人の知る人から教えてもらっている ・趣味や以前の暮らしの中に活かし、その人の力を発揮してもらう様にしている ・昔の写真を持ってきてもらい、写真を見ながら思い出を回想法につなげている 	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・馴染みの人間関係を維持しながら、その人らしく暮らし続けられる様、ホームでのお楽しみ綴り作成 ・言葉では十分意思表示できなくても表情や反応をキャッチしながら、家庭的な雰囲気の中で利用者とスタッフが共に生きながら、支援に努めている ・現状報告書のスナップ写真の表情から、いろんな事を観察出来る 	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議の中でケアマネージャーの支持のもとに、それぞれの担当職員を中心に全職員で考え、毎日の中で実践可能なケアプランを作り（家族の要望を事前に聞いている）利用者自身の生活の視点を当てたアセスメントに基づき、自立に向けた支援計画を作成している 	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・3ヶ月毎の見直しを介護支援専門員が、施設長、ケアスタッフ、家族との話し合いを行ない、本人の状態、主治医の話を聞いて現状に即したケアプランを作成している 	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・一人ひとりのケアプランの作成と実践及び、モニタリング評価を行ない、担当スタッフが月毎に個別記録をまとめているが、問題点等会議の中で話し合い、ケアプランにつなげている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・平成19年7月開所したケアホームの入居者とオアシスサロンにて、交流の場を日中は設けている ・地域の方々との料理講習会、お茶会に参加している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・日南市の中心地にあり、左記の地域資源は200～500mの範囲内にあるので、有効に利用させてもらっています (福祉会館、市役所、警察、消防、文化センター、公園、保育園など)		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・利用を考えている人達にホームの情報や様子を発信してもらう窓口として、他のセンター等と連携を図っている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・本人の意向や必要性に応じて運営推進会議に参加いただき、助言していただいている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者、スタッフと共に料理を作ったり、盛り付け、食器洗い後片付け等を行っている ・一人ひとりの役割分担があり、テーブル拭き等、楽しみながら行っている ・自分の食べた物は自分で下膳することをモットーにしている(入所者・職員も)五感を生かし、楽しむ食事に配慮している 		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週、日曜日は利用者の好きな食べ物を一人ひとり意見を聞き、買い物し、皆で料理している ・お正月はお屠蘇、夏は納涼祭でビールを出している ・タバコは入所時より禁止 ・一人ひとりの健康管理に努めている(治療食～鉄欠乏食)栄養士が管理している 		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・日中は綿パンツに変え、トイレ誘導にて排尿・排便介助を行っている ・トイレ誘導する事により、尿意、便意等の訴えが見られる様になった ・身体機能、脳の活性化(ADL拡大)につながっている ・本人の希望により尿とりパットを使用している方もいる 		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日でも入浴希望があれば入浴して頂いている ・原則として1日置きに入浴する ・入浴後は、チェック表に本人が○印をつける事で、入浴の意識付けが起き入浴を嫌がらなくなった ・見守りしながら自分で洗える所は洗ってもらう等、残存機能を生かした支援をしている ・洗髪後はドライヤーで乾かし、足の指の間の水虫の治療し軟膏塗布している 		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として午後は1時間位昼寝の時間、眠たい時に休憩出来る様に、畳・マットにて枕・毛布等を準備している ・各居室に戻ろうとせずに、皆が見える範囲内で、休む事で落ち着くのか休息される ・ぐっすり休息をとらせるのが一番だと思う 		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・各自、何らかの役割を持っていて強制でなく、気分に応じて楽しみながらこなしている(テーブル拭き、お茶碗洗い、お茶わん拭き、お盆並べ等) ・脳の活性化を図る”脳いきいき体操” ”なつかしい歌”を毎日歌う(ピアノに合わせて)(計算ドリル・塗り絵・折り紙・ジェンガ遊び・トランプ・カルタとり) ・若い時の家族の写真のアルバムを見て楽しんでいる 		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人には原則としてお金は持たせていない（盗難癖、盗られ妄想の方がいらしてトラブルの原因になるので） ・買い物。お祭等にはお財布を持たせ、500円位自分の好きな物を選んで買い物指導を支援している ・時々、現在のお金がわからない時もあるので、お札を見せて説明している 		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・畑仕事と編物、縫い物等に興味を示す方には、個々に当たって支援している ・情緒不安定が見られ、入居者には気分転換に自宅・海を見たりしてドライブに誘っている（30分位） ・公園へ散歩を行ったりしている ・近くのスーパーにほとんど毎日の様に職員が買い物に出かける時、希望者を2～3人連れて行く 		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・家族と共に温泉めぐりにて入浴し心身共にリラックスし、会食（自分で選んで食事）に満喫しました ・桜見学にてお食事何処「はんえい」で料理に舌鼓し、最高でしたとの弁でした ・父の日、母の日等の祝日の折にはホテル等にバイキングに出かける ・文化センターにて、踊り・歌等を観賞する ・道の駅、デパートに買い物に出かける 		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・交流を計っている園児達からのメッセージカード、家族からの年賀状・手紙、子供達からの声の便りがある （父の日、母の日、誕生日、正月等） 		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・面会、お見舞いに来園された時は、お茶をお出ししてゆっくりと話しが出来る様に配慮し、色々近況を話してもらっている ・家族とのスナップ写真を記念に必ず写して、本人にも家族にも渡している 		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として「身体拘束」は禁止としている ・介護技術の研究と工夫に取り組み、利用者の「人権尊重」を守り、生活環境の整備を図っている 		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	○	夜間の訓練も実施したいと思っている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・身体機能の変化、問題行動等を介護計画書にあげ、家族に説明している ・毎月現状報告に心身の状況や日常状況にて文書・スナップ写真にて詳しく報告している		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・バイタルチェックを朝・昼・夜測定し、食欲・水分補給・便秘・顔色等常に状況を個別に記録 ・夜間の状況報告書を介護日誌以外に一覧表を提出し、全員で情報を供給 ・入所者の体調不良が見られたら掛かりつけ医に報告、診察、指示を仰いでいる ・急変時は救急車にて県病院へ搬送している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・入所者個人が服用している薬剤の治療目的薬の用法掛かりつけの指示にて支援している ・介護に関わる全職員が把握している ・副作用が見られたら、状況の変化チェック ・薬剤師を招き勉強会を開いた ・薬のマニュアル作成		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・入所者一人ひとりの生活の中で、食事・体操等で、自然排便を促している ・毎日水分補給チェック（1日1500cc以上） ・運動・緩下剤のコントロール等で対応している		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・食欲の低下、口の中の出血や肺炎の感染症になる事があるので、口腔内の清潔保持に努めている ・歯みがき・入れ歯調整を歯科と連携を行い、口腔ケアの研修会に参加している		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・施設長が献立作成に関わり、食について配慮している ・腎臓食、貧血の方の栄養補助食品を併用し、栄養バランスの考えた献立、一日の摂取カロリーや水分飲用量に気をつけている ・お茶ゼリー、牛乳ゼリー等を作り対応している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症に対する予防・対策・早期発見・対応を全職員に学習を行っている ・感染症マニュアルを作成し、感染症研究員の峯松医師との勉強会を行っている ・インフルエンザ予防注射は年一回必ず実施している ・第一に手洗いが重要であり、入所者・職員も実行している 		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・食材は料理を作る時点で、材料をチェックしている ・手洗い励行（入所者・職員） ・調理用具・布巾・まな板は、使用前必ず熱湯・アルコール等で消毒し、食中毒の予防に努めている 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入所者にとって自分の家に代わる住み家として、季節に応じた花々からパワーいただける様に、ハーブ等環境作りを大切に家族・地域の方々がほっとする家庭的な配慮をし、入所者が水や肥料をやったりしている 		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入所者は不安になりやすく、音の大きさ・照明・温度調整を入所者に合わせ、馴染みの場所、安心感のあるその人らしく暮らして行く配置の工夫をしている ・娯楽のコーナー・食事のコーナー・寝室を区別している 		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の生活の中で不安やストレスになりやすいので、ソファのコーナー・畳のコーナーと思い思いに過ごし、居心地良く過ごされる様に配慮している ・いつの間にか一人ひとりの場所が決まっている ・自分の部屋にて昼間、絵を書いたりしている人もいる 		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周や空間の活用</p> <p>建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

19年度、特に力を入れて取り組んだ課題として、下記の事を実践している

- ①観察力アップ（職員のレベルアップの為）
- ②職員の管理簿（介護マニュアルの管理の為）
- ③看取りの指針
- ④家族への毎月の現状報告書
- ⑤地域とのふれあい
 - ・地域の老人クラブとの公民館での交流
 - ・幼稚園児の定期交流